

授業科目名・形態	文学の世界	講義	必修・選択の別	選択
担当者氏名	相馬明文	開講期	1～2年前期	単位数 2

【授業の主題】

文学作品は、私たちにとってどのような意味を持っているのか。人生の手本・処方箋だという考えやし好品に近いという意見の一方で、全く意味など認めない人たちもいる。この授業では何らかの意義や価値を認める位置から、文学作品とくに小説の魅力と価値について学び合っていこう。その一つの方法として、〈文学の表現〉〈文学の技術〉を注視しながら、主として小説表現の分析をしていく。まず芥川龍之介と太宰治の代表作から数編取り上げて、基本事項を確認する。その後、大館に縁の深い作家でもある石川達三をはじめ、郷土の作家と作品にも視野を広げていきたい。

なお、この授業での作業や思考は、私たちの日常生活での文章表現上の〈読む・書く〉活動等の参考になるものと考ええる。

【到達目標】

- 1) 小説の〈読み〉の基本的技術と解説の作業を理解・習得すること。
- 2) 郷土（大館市とその周辺および秋田県）の作家と作品について理解すること。
- 3) 文学作品の世界を、社会におけるヒューマンリレーションズの一環として分析・解説すること。

【授業計画・内容】

- 第1回 本講義の主題と目標についての概略の説明
- 第2回 文学作品・文学表現の魅力と価値
- 第3回 芥川龍之介の小説①（「羅生門」を中心に）
- 第4回 芥川龍之介の小説②（「蜜柑」を中心に）
- 第5回 芥川龍之介の小説③（2つの作品の共通点と相違点）
- 第6回 太宰治の小説①（「走れメロス」を中心に）
- 第7回 太宰治の小説②（「人間失格」を中心に）
- 第8回 太宰治の小説③（小説の「語り手」の意味）
- 第9回 石川達三の小説①（「蒼氓」を中心に）
- 第10回 石川達三の小説②（社会派の文学について）
- 第11回 “あきた”の文学と作家①
- 第12回 “あきた”の文学と作家②
- 第13回 詩・短歌・俳句から①
- 第14回 詩・短歌・俳句から②
- 第15回 総まとめ

【授業実施方法】

基本的には講義形式を採りながら、文章でのまとめや口頭発表なども取り入れる。

【授業準備】

「羅生門」「蜜柑」「走れメロス」「人間失格」を読んでおくこと。

【主な関連する科目】

「文章表現」

【教科書等】

太宰治『斜陽 人間失格 桜桃 走れメロス 外七編』（文春文庫）、芥川龍之介『地獄変』（集英社）

【参考文献】

講義の中で、随時、参照する文献を挙げていく。

【成績評価方法】

筆記試験 50%、課題レポート・提出物 30%、授業への取り組みの姿勢 20%により総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

文学作品そのものが多様であるために、その読み方もさまざまなアプローチがある。特に、中学高校時代の教室で読んだ小説「走れメロス」「羅生門」を、もう一度読んでみることを通して、各人の今までの知見の底辺が広がるだろう。他の学習者の読解を尊重しながら、自分自身の〈読み〉を高めていく積極的な姿勢を期待したい。